

越冬期調査・速報2題

異変! 東京湾のスズガモが激減

東京湾には全国最大規模のスズガモが越冬していますが、昨冬から今年の初冬にかけてその数が少ないという現象が見られています。

東京湾一帯を長年調べている幹事の田久保晴孝さんによると、三番瀬の猫実川河口域には、例年数万羽のスズガモが確認されますが、今冬は数百羽しか確認できなかったとのことです(12月12日調査)。葛西でも探鳥会担当幹事の鈴木弘行さんによると、例年最大数が3万羽【写真1】を下回るのは少なかった葛西沖でも、昨冬は最大1万羽しか記録できなく、今年も3,500羽程しか観察されていないとのことです(12月8日調査)。



写真1 葛西沖のスズガモの群れ
(鈴木弘行氏撮影)

東京湾のスズガモは、例年10月から冬鳥として渡来し、11月上旬にピーク(5万羽)となり、その後減少(分散)し、1～3月上旬には1万羽の生息を確認しています。同様のことは、日本野鳥の会千葉県会の会報誌『ほおじろ』でも「三番瀬のスズガモが激減 県各地のスズガモの動向に注意しよう」として問題視されています。その原因としては、昨年9月の台風19号による、江戸川放水路からの泥水放流で貝類が死滅したことが挙げられていますが、さらなる調査・研究が必要と思われます。

(川内 博)

トピック 伊豆諸島にハクガンが!!

2020年11月に、伊豆諸島の大島、御蔵島、八丈島の3島で、ハクガンが観察されました。大島と御蔵島ではそれぞれ1羽、八丈島では5羽の幼鳥が確認され、大島では12月11日までは観察されたものの、御蔵島と八丈島ではすぐになくなったようです。【写真2】

ハクガンはかつて日本で多数が越冬し、1890年ごろまでは東京湾にも大群が越冬していたそうですが、その後減少し日本では稀な鳥になってしまいました。しかし、1993年に日米露によるアジアのハクガン復元プロジェクトが立ち上がり、その活動の成果により日本に渡来するハクガンは増加し、昨シーズンの渡来数は1,000羽を大きく超えました。

東京都内でも2015年10月中旬ごろから2016年4月6日ごろにかけて、足立区荒川で幼鳥3羽が越冬した記録があり、これは東京都内での約100年ぶりの記録となりました。今回の記録は、荒川での記録から5年ぶり、東京の島嶼部では初記録と思われます。

ただ、今回ハクガンが観察された場所は、いずれも通常日本国内で観察される場所とは異なる環境のようです。ハクガンが過去に東京の島嶼部で記録されていないのに、今回なぜここまで南下したのか、滞在期間がなぜ短かったのか、各島の個体は別個体なのか、などよく分からないこともあり、今後より詳細に記録を分析したいと思います。

記録の収集にご協力いただいた天野洋祐さん、願法真理美さん、高須英之さん、菊池 健さんにお礼申し上げます。

(野鳥記録委員 渡部良樹)



写真2 大島のハクガン(願法真理美氏撮影)